

● 浜 の 話 題

- 6月16日、東京内湾小型機船底びき網漁業者交流会（神奈川県と千葉県の小底漁業者の交流会）が横浜テクノタワーホテルにおいて開催されました。東京湾小型機船底びき網協議会の小山則昭会長が議長となり、小型底びき網の禁漁区の設定等について意見交換を行いました。また県水産技術センター栽培推進部の職員から、横浜市漁協柴支所におけるトラフグの銘柄別漁獲状況と資源管理方策について話題提供しました。
- 6月19日、（公財）相模湾水産振興事業団は、腰越地先に全長3～5cmのヒラメ種苗2万尾を放流しました。ヒラメ種苗はみな状態もよく、放流後、海底に向かって元気に泳いでいきました。
- 6月19日、平塚市漁協はチョウセンハマグリ（以下、はまぐり）の勉強会を開催しました。はじめに同漁協職員から、今年2月から4月にかけて同漁協が実施したはまぐり分布調査を兼ねた海底耕耘事業の結果について報告がありました。その後、県水産技術センター普及指導員から、はまぐり資源増殖で先進な藤沢市漁協の事例紹介と、地先でのはまぐり増殖に向けた今後の課題の説明をしました。勉強会には地元漁業者の他、（公財）相模湾水産振興事業団、平塚市、県生命の星・地球博物館等の職員も参加し、活発な議論が行われました。



勉強会の様子



活発に議論を交わす参加者

- 6月20日、横須賀市東部漁協浦賀久比里支所および走水支所所属の漁業者が生産したワカメ種苗の育成状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。種苗はいずれも順調に育成しており、照度と水温に注意して管理すること等の指導を行いました。
- 6月21日、県下の20名の漁業者で構成されるアカモク協議会は、アカモクのPRのぼりと「アカモクを100倍楽しむレシピ」を作成しました。レシピには、アカモクを使った和・洋・中の料理合計22品目のメニューが掲載されており、各浜でアカモク販売促進のため活用しています。



「アカモクを100倍楽しむレシピ」とPRのぼり

- 6月21日、小田原市漁協遊漁部会は、小田原沖の3地点に簡易浮魚礁を設置しました。この魚礁設置事業は毎年実施されており、回遊性魚類の増集を図ることで、新しい釣り漁場を造成することを目的としています。今年も魚礁周辺に好漁場が形成されることが期待できます。



浮魚礁を作成する遊漁部会員

- 6月23日、茅ヶ崎市漁協はチョウセンハマグリ資源増殖に向けた勉強会を開催しました。県水産技術センター普及指導員から、はまぐり資源増殖で先進的な藤沢市漁協の事例紹介のほか、3月と4月に実施した分布調査の結果と今後の課題を説明しました。この勉強会には漁業者、(公財)相模湾水産振興事業団、茅ヶ崎市等の関係機関職員を含めた計18名が参加し、活発な議論が行われました。



はまぐり資源の話に聞き入る参加者たち

- 6月25日、宮崎県の延岡市漁協所属漁業者および同県の水産関係職員計5名が長井町漁協を訪れ、アカザエビかご網漁について視察しました。当日は、かご網漁業を行っている第三井戸隠居丸の嘉山さんが、漁具の概要や漁労設備、漁獲状況等について説明しました。一行はその後、長井町漁協青年部の漁業者と、宮崎のサワラ・カマス漁業や神奈川のアカモク製品加工等について情報交換を行いました。



アカザエビのカゴ網の視察の様子



長井町漁協青年部員との情報交換

○ 6月25日、平塚市漁協は市の助成を受け、湘南ベルマーレひらつかビーチパーク沖に全長約5cmのヒラメ稚魚を1万6千尾放流しました。このうち2千尾は、市立港小学校の5年生約110名が、乗船体験を兼ねたイベントで放流しました。参加した生徒らは、自分たちが放流したヒラメ稚魚が海底に向かって泳いで行くのを大切そうに見守っていました。



放流前に説明を受ける生徒たち



放流の様子

○ 6月25日、大磯二宮漁協は(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受け、全長約5cmのヒラメ稚魚を1万2,600尾放流しました。これらの種苗が今後、地先のヒラメ資源として寄与することが期待されます。

○ 6月25日、小田原市漁協青年部会は、小田原沖に簡易竹魚礁を設置しました。この魚礁はカワハギ・アジ等の鯖集およびアオリイカの産卵床の形成を目的としており、今年度はより魚の鯖集に適した形としました。今後は鯖集した魚を釣獲し、活魚出荷試験なども実施する予定です。



竹魚礁設置の様子

○ 6月26日、平成30年度定置漁業研究会総会が県水産技術センター相模湾試験場で開催されました。総会では、平成29年度の事業報告と平成30年度事業実施案の承認が行われました。

また話題提供として、静岡県水産技術研究所伊豆分場から「伊豆東岸定置網での近年の漁獲魚種と漁獲量の傾向」、(株)関西ペイントマリンから「相模湾西部海域での防汚剤試験結果と当該海域で効果のある防汚剤について」の講演があり、出席した会員は貴重な情報を得ることができました。



定置研究会総会の開催

- 6月28日、横浜市漁協金沢支所は、地域の小学生に栽培漁業と資源管理への理解を深めてもらうため「金沢放流祭り」を開催しました。当日は、地元の金沢小学校と関東学院六浦小学校の5年生が遊漁船に分乗し、八景島近くで全長8センチ前後のヒラメ5千尾、メバル3千尾を放流しました。参加した児童たちは、種苗放流と乗船体験を楽しむとともに、同支所の久保寺支所長や(公財)神奈川県栽培漁業協会からの説明を熱心に聞いていました。
- 6月28日、上宮田漁協所属の漁業者が生産したワカメ種苗の育成状況を、担当普及指導員が顕微鏡で確認しました。種苗の育成状況はいずれも順調で、一部芽胞体(ワカメの芽のようなもの)が観察された種系については、育成小屋の中をより暗くする等の管理方法を担当普及指導員から指導しました。
- 6月30日、神奈川県水産課は「平成30年度神奈川県漁業就業セミナー」を開催しました。第1部の漁業セミナーでは、腰越および二宮地区の若手漁業者から漁業就業の体験談について、安浦地区のベテラン漁業者から先進的な漁業の取組等についてそれぞれ説明があり、漁業就業に興味を抱く30名の参加者はみな熱心に聞き入っていました。また第2部では、新規就労者を募集する漁業者と、漁業現場への就労を希望する方とのマッチング会が行われ、参加者は皆、真剣に就業条件等の話を漁業者から聞いていました。

●お知らせ

- 7月28日(土曜日)18時からNHKBSプレミアムで放映予定の『まんぷく農家メシ!』で、「漁師メシ編たこ〜神奈川県横須賀市」というタイトルでかながわブランド「佐島の地だこ」が取り上げられます。この番組では横須賀市大楠漁協所属の平野指導漁業士(平敏丸)、梶ヶ谷青年漁業士(武丸)よび三橋さん(学丸)が取材を受けた様子や、「佐島の地だこ」に対する漁業者のこだわりや美味しい食べ方等が紹介される予定です。